

技術情報

JA全農やまぐち
TAC・営農推進課 (083-988-0681)
平成 25 年 8 月 5 日 発行
第 175 号

I 平成 25 年度 第 5 回 水稻生育診断情報

農林総合技術センターからの水稻生育・栽培管理速報 (No.5) を参考に技術情報を作成しました。水稻栽培の管理指導にご活用ください。

1 気象状況

- 7月上旬は降水量が多く、著しい寡照で推移し、特に7月3日～4日は2日間の雨量が150 mm近い大雨となった。
- 7月8日の梅雨明け以降は、一転して最高気温が35℃を超える猛暑となった。
- 山口市では、7月3、4半旬の最高気温、日照時間が過去10年で最高・最多となった。
- 7月第5半旬までは、高温多照の天候が続いたが、第6半旬は最高気温がやや低下し、最低気温が上昇する傾向が見られた。
- 7月28日、萩市須佐で1日の降水量が350mmを超える未曾有の豪雨となり、萩市須佐、山口市阿東を中心に大規模な水害が発生した。

2 生育概況

水稻の生育状況(平成25年8月1日現在)														
区分	品種	移植期	出穂期		草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉齢(L)		葉色	
			日	差	比	差	比	差	比	差	差	差		
奨励品種決定調査	コシヒカリ		7月24日	▲1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとめぼれ	5月15日	7月24日	▲2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	晴るる		7月28日	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	きぬむすめ	6月10日			88	101%	1	531	108%	39	12.6	0.8	4.3	▲0.2
ヒノヒカリ				83	105%	4	535	108%	40	12.6	0.8	4.2	▲0.3	
定点基準ほ	ひとめぼれ				98	108%	7	404	96%	▲15	14.0	0.8	4.5	0.3
	コシヒカリ	5月29日			111	110%	10	391	92%	▲33	13.8	0.7	4.7	0.4
	きぬむすめ				90	101%	1	406	102%	7	14.0	0.9	3.9	0.9
	ヒノヒカリ	6月18日			67	102%	1	504	93%	▲38	12.1	0.2	4.1	0.1
農林事務所農業部調査ほ場	コシヒカリ	5月15日	7月28日	▲4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	ひとめぼれ	5月20日	7月29日	▲4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	晴るる	5月21日			89	102%	2	316	111%	32	13.0	0.3	3.8	▲0.4
	きぬむすめ	5月29日			91	100%	▲0	414	106%	24	13.2	0.1	4.2	0.1
	ヒノヒカリ6月上中	6月4日			79	99%	▲1	402	105%	20	13.3	0.4	4.1	▲0.1
ヒノヒカリ6月下	6月23日			65	103%	2	421	103%	12	11.9	0.3	4.5	0.1	

※ 比・差は過去5年平均との比較(定点基準ほは過去7年との比較)

(1) コシヒカリ (5月上中旬植え)

- 大半が出穂期に入っており、出穂は平年より2～8日早い。
- 出穂期に穂揃いが悪い。

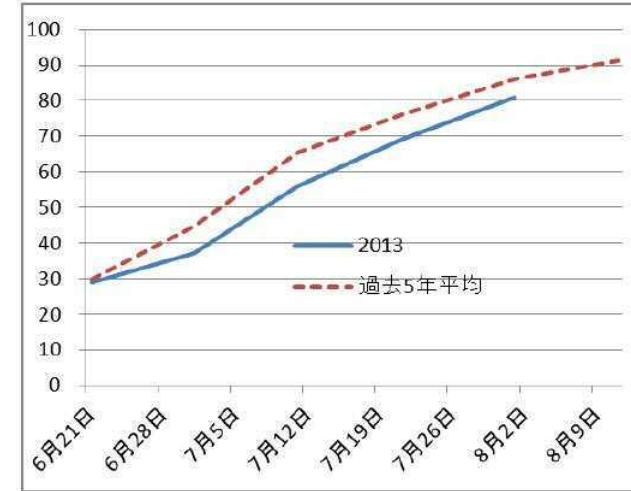
(2) ひとめぼれ (5月中下旬植え)

- 大半が出穂期に入っており、出穂は平年より1～5日程度早い。

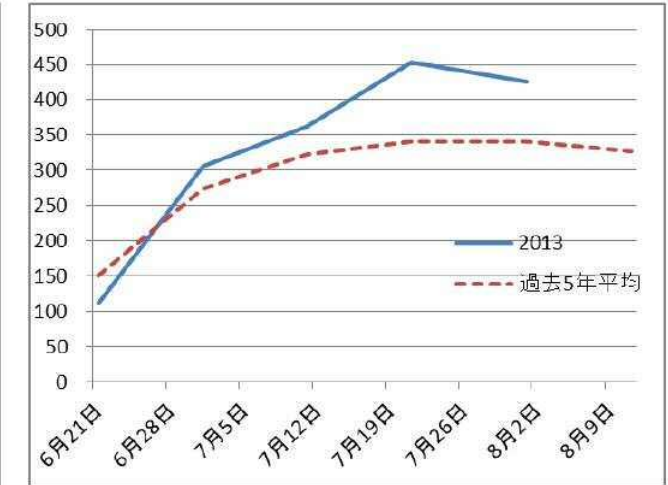
(3) 晴るる (5月下旬植え)

- 出穂が始まっており、出穂期は平年より3日程度早い。

(4) きぬむすめ (5月下旬～6月上旬植え)



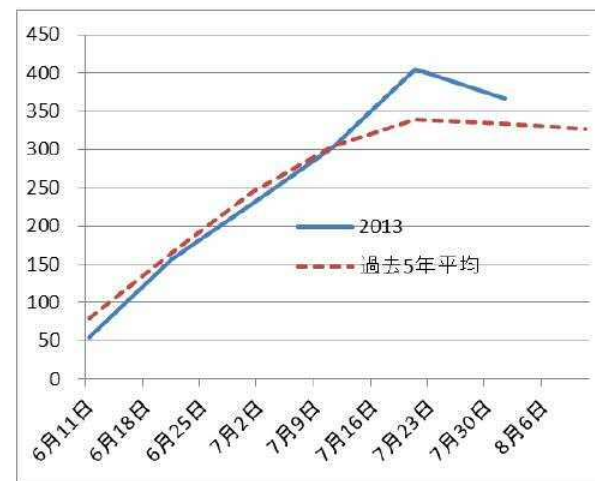
きぬむすめ草丈 (下関市豊田)



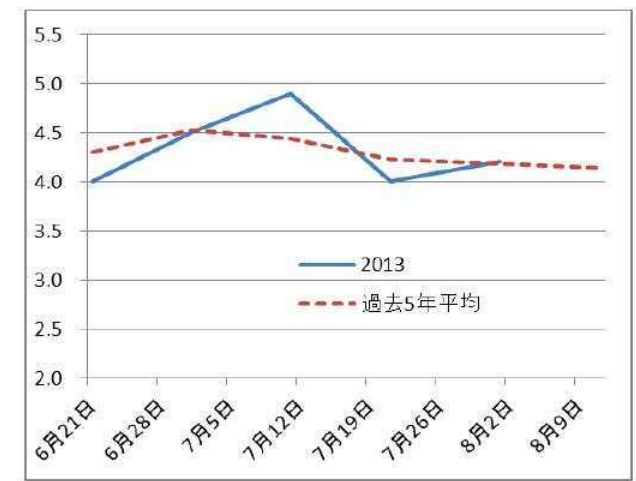
きぬむすめm²当茎数 (農試定点)

- 幼穂形成期に入っており、生育はやや早いことから、出穂期は平年より1～2日早まる予想である。
- 草丈は平年並み～やや長く、茎数は平年並み～やや多い。
- 葉色は平年並みとなっている。

(5) ヒノヒカリ (6月上旬植え)



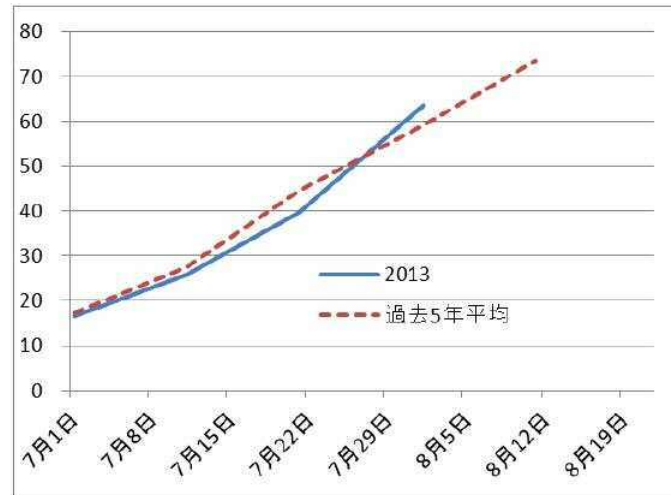
ヒノヒカリm²当茎数 (下関市王喜)



ヒノヒカリ葉色 (下関市王喜)

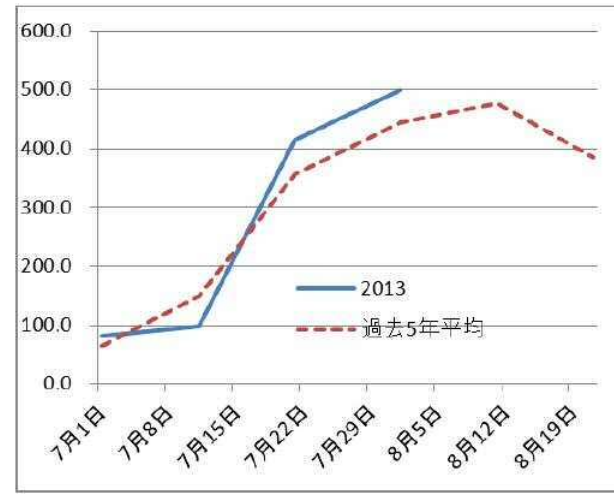
- 6月上旬植えで概ね幼穂形成期に入っている。
- 草丈は平年並みからやや短い。
- 茎数は平年を上回っているが減少傾向にある。
- 7月中旬以降急激な葉色低下したほ場も、葉色板で4前後の葉色を維持している。

(6) ヒノヒカリ (6月中下旬植え)



ヒノヒカリ草丈 (山口市秋穂二島)

- ・ 葉齢は、平年よりやや早い。
- ・ 草丈は7月下旬からやや長めとなっている。
- ・ 茎数の増加は頭打ちとなっており、平年並み～やや上回る程度となっている。
- ・ 葉色は平年並み～やや濃く推移している。



ヒノヒカリ m²当茎数 (山口市秋穂二島)

3 病害虫発生状況

- ・ 斑点米カメムシ類の発生は多く、7月16日には注意報も出されている。
- ・ 7月下旬以降コシヒカリ、ひとめぼれを中心に葉いもちの発生が多くなっており、発生程度は平年に比べてやや多である。
- ・ 紋枯れ病の発生は平年に比べてやや少である。
- ・ コブノメイガの発生は平年並みであり、7月中旬以降食害痕が目立ち始めている。トビイロウンカの発生は、平年並みである。

4 今後の管理

(1) 7月28日の大雨による冠水、土砂流入等の被害を受けた稲の管理

- ・ 大雨の被害を受けた稲の対応については、7月31日付け「7月28日の大雨による農作物等被害の事後対策」を参照する。

◎冠水した水稻では、細菌性病害が発生しやすくなることから、カスラブサイド剤や銅剤を散布する。なお、使用前には必ず農薬使用基準を確認する。

(2) コシヒカリ、ひとめぼれ、晴るる(5月上～下旬植え)

- ・ 概ね出穂期となっていることから、湛水管理を徹底するが、8月も高温の天候が続くと予想されることから、用水の入れ替えや夜間かけ流し等により、水温を低く保つことを心掛ける。
- ・ いもち病、斑点米カメムシ類の発生がやや多いことから、穂ばらみ期、穂揃い期の防除を徹底するとともに、8月上旬までに収穫する稲については、穂揃い期後7日に斑点米カメムシの補完防除を行う。

(3) きぬむすめ(5月下旬～6月上旬植え)

- ・ 幼穂形成期に入っており、湛水管理を徹底するが、8月も高温の天候が続くと予想されることから、用水の入れ替えや夜間かけ流し等により、水温を低く保つことを心掛ける。
- ・ 1回目の穂肥を施用した稲については、葉色が濃くなりすぎていないことを確認して、8月5日頃までに2回目の穂肥を施用する。

(4) ヒノヒカリ(6月上旬植え)

- ・ 幼穂形成期に入っており、湛水管理を徹底するが、8月も高温の天候が続くと予想されることから、用水の入れ替えや夜間かけ流し等により、水温を低く保つことを心掛ける。
- ・ 8月初旬に、幼穂の状況、葉色を確認して穂肥を施用する。茎数が多い場合も必要以上に穂肥を増量することは避け、基準量までとする。また、緩効性肥料を施用している場合も、8月10日前後までに葉色が低下するほ場では追肥を施用する。

(5) ヒノヒカリ(6月中下旬植え)

- ・ 中干しを終了して、走水をした後、8月5日前後から湛水管理に入るとともに、1回目の穂肥を施用する。茎数が多い場合も必要以上に穂肥を増量することは避け、基準量までとする。
- ・ 緩効性肥料を施用している場合も、葉色の変化に注意して、急激な色落ちがある場合には8月中旬までを目安に追肥を施用する。

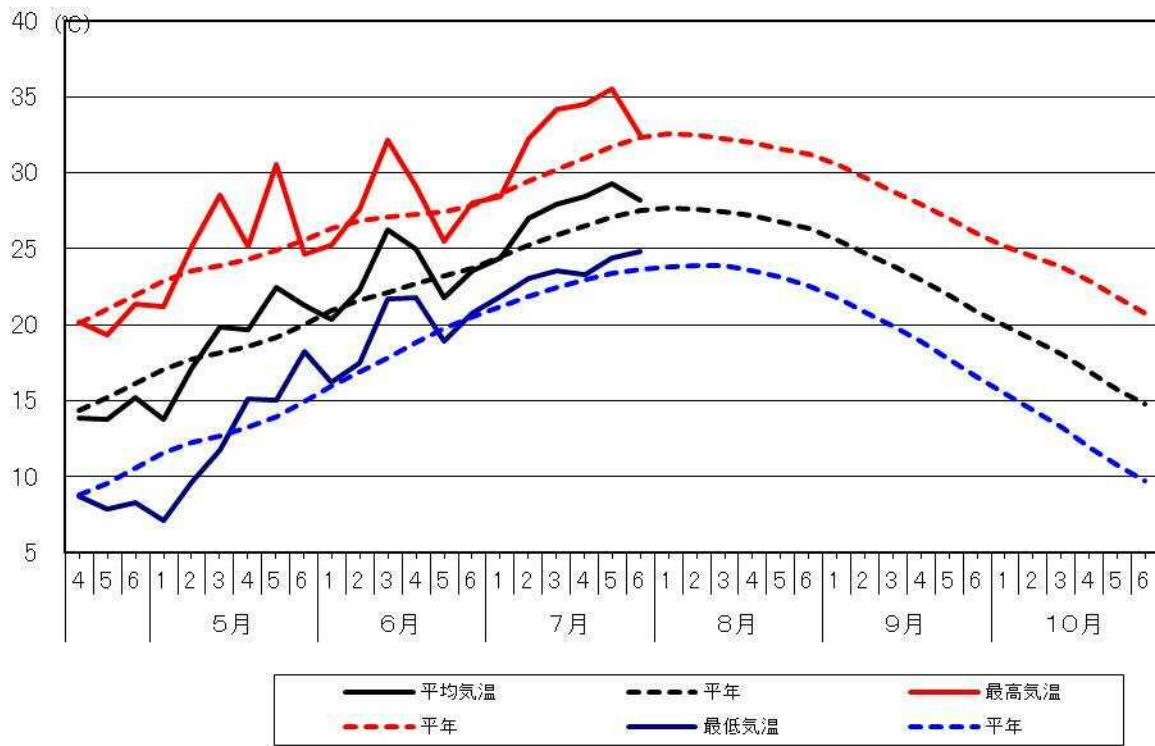
(6) 病害虫防除等

- ・ 斑点米カメムシが多発していることから、出穂2週間前の畔草刈は必ず実施するとともに、その後もイネ科雑草が穂を出さないよう管理する。
- ・ きぬむすめ、ヒノヒカリについても穂ばらみ期、穂揃い期のいもち病・斑点米カメムシ類の防除を徹底する。
- ・ 紋枯れ病の発生が散見されており、ほ場での発生に留意する。防除の目安は、穂ばらみ中期(出穂14日前頃)の発病株率が15～20%以上。
- ・ コブノメイガは、第2世代最盛期(7月24～26日、8月4～6日)の払い出し調査で成虫がm²当5頭以上確認された場合、粉剤は7日後、粒剤は直ちに防除を行う。
- ・ 今後一か月間の長期予報では、高温の気象が続く確率が増大しており、引き続き水管理や稲体の栄養管理に留意して、高温障害の防止に努める。

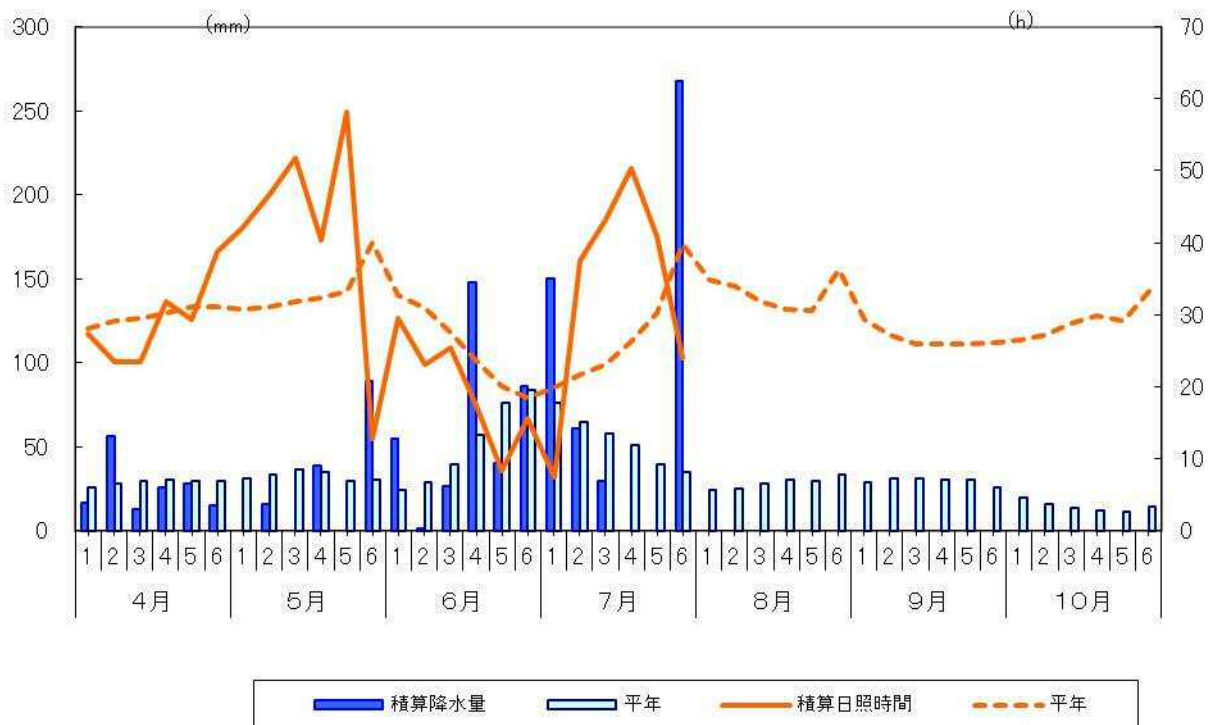
平成 25 年度 稲作期間気象表

1 山口市

(1) 最高・最低・平均気温

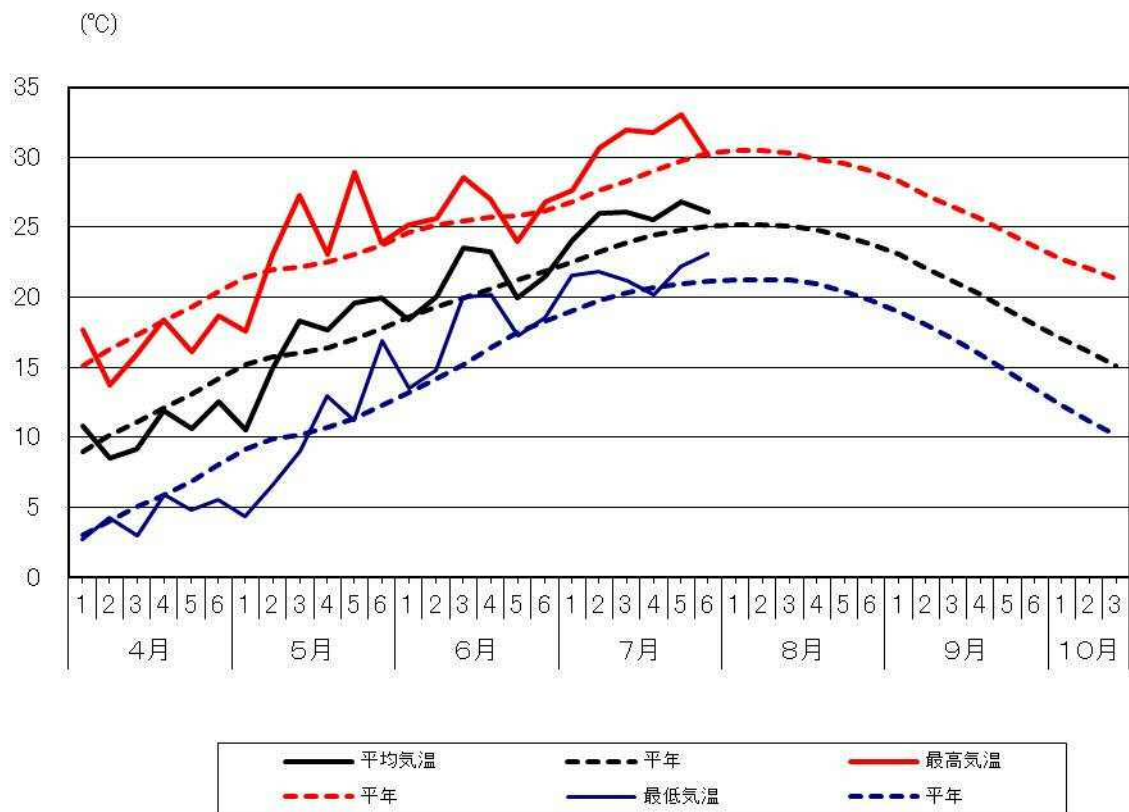


(2) 降水量、日照時間



2 山口市阿東徳佐

(1) 最高・最低・平均気温



(2) 降水量、日照時間

